

R5-05

地域と連携した児童の安全を守る取組

- 管内 日高管内
- 分類 通学路の点検 交通安全教室 安全教育 その他（ ）
- 教育課程 教科（ ）科 道徳 総合的な学習（探究）の時間 特別活動
- 校種 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校
- 取組のポイント

- 1 地域住民と連携した通学路安全マップづくりを通じた危険箇所の把握
- 2 町内関係機関と連携した交通安全教室による安全教育の実施

■取組の実際

ねらい

- 児童と地域住民の方が一緒になって毎年通学路の危険箇所の情報を確認することにより、通学路や居住地域にある危険箇所や交通安全に対する意識を高める。
- 平取町町民課、町内派出所等、関係機関と連携した交通安全教室を実施することにより、通学路の安全歩行、自転車の安全な乗り方を確認する。

内容

1 地域住民と連携した安全マップ作成の取組

毎年夏季・冬季の2回、地域ごとの4グループに分かれて、児童が通学する道路や地域の安全確認を行う。グループでの話し合いでは、小学校第5、6学年のリーダーが進行し、昨年度までの通学路の危険な場所を確認した上で、新たな注意点を加える活動を行う。今年度は、児童が新たな気づきを得られるよう、地域住民の方々から通学路の注意点について話を聞く場を設定し、安全マップの見直しを行った。



【振内小安全マップの一部】

2 町内関係機関と連携した交通安全教室の実施

毎年、平取町町民課、町内警察派出所等の協力のもと、通学路の交通安全教室を実施している。小学校第1、2学年の児童は、通学路を歩き、交差点の安全確認、信号の安全な渡り方を確認する。小学校第3学年以上の児童は、自転車の乗車、信号の渡り方等を確認する。

実施後、交通指導員、警察の方から指導を受け、児童が自分事として交通安全についての意識を向上させるよう徹底を図った。



【町内関係機関と連携した交通安全教室】

成果と課題

- 通学路安全マップづくりでは、子どもたちが、地域住民の方々から感じた危険地帯や最新の地域の安全情報等を知ることにより、安全に対する意識を高めることができた。
- 毎年、町内関係機関と連携した通学路の安全歩行、自転車の安全走行を実施することにより、春先に子どもたちの交通安全に対する意識を高めることができた。
- 通学路安全マップづくりに適任な地域住民の選出・依頼に時間がかかることから、計画的にCSのしくみを生かして、人材を確保していく必要がある。